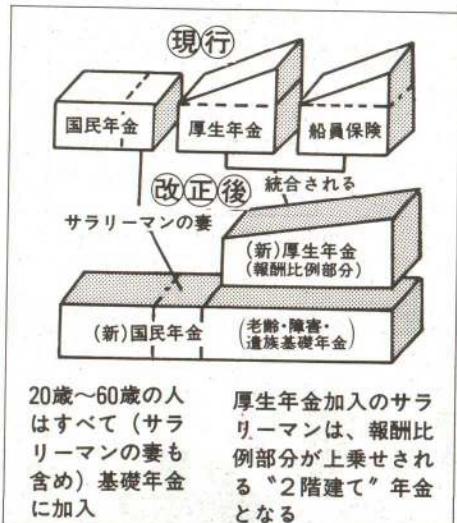


61年4月1日から

## 新しい年金制度

がスタート

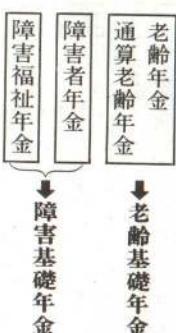


## 改正のポイント

## サラリーマンの奥さんも強制加入

現在の国民年金は、農業や商業などの自営業や自由業などの人のみが加入することになります。また、民間企業に勤めるサラリーマンは厚生年金に加入し、その奥さんは国民年金に任意加入となっています。

来年4月から変わることで、これらの人すべてに基礎年金を支給する制度に改められ、サラリーマンやその奥さんもすべて加入しなければならないことになります。



## 大きく整理

保険料は、現行と同じく一律、月額六千八百円（59年度価格で毎年三百円ずつ引き上げられます）に物価上昇分をプラスした額となります。

新制度では、厚生年金被保険者本人とその奥さんも加入することになりますので保険料を別個に負担する必要はありません。これは厚生年金の被保険者が支払った保険料の中から、本人と奥さんの分について、国民年金にまとめて拠出されるからです。

## 新しい年金制度

老後や万一一のとき、私たちの生活に大きな支えとなる年金制度が、六十年四月から大きく変わることになりました。今回の年金改正の目的は、高齢化社会のピークを迎える二十一世紀前半を乗り切るために年金制度を公平かつ安定的に運営していくための基礎を確保することです。

新しい年金制度には、三つの柱があります。第一は、基礎年金の導入です。これは、厚生年金に加入しているサラリーマンとその奥さんもすべて国民年金に加入し、厚生年金と国民年金に共通した基礎年金を受けられるようになります。第二は将来の年金の水準を労働者の所得や保険料負担とバランスがとれるようにすることです。そして第三はこれまで国民年金に加入実に基礎年金を受けられるようにするものです。今号では、この新年金制度のあらまじについてお知らせします。

## 保険料は……

## 障害年金の支給を改善



## 市長の対話ノート



No.119

## 秋の味覚

あつという間に秋本番を迎えました。昨年に続いての豊作とあって、不況の中にも一光を感じます。

「天高く、馬肥える秋」の諺の如く食欲の秋であり、味覚の秋です。しかし、そのおいしい秋田米の消費が年々落ち込むとあっては由々しい問題です。世界に誇る長寿の支えは日本型食生活があり、主食は米であることを正しく知つて貰わなければなりません。

さて、日本の食生活といえば、「真心のこもつたおふくろの味」です。日本ならではの工夫を凝らした料理が数多くあります。ところが近年、共稼ぎ世帯の増加とともに、この食の文化をおそらくにしがちになつているようです。共稼ぎの前提是夫婦の協力。おふくろの味を守りたいのです。

そして秋を迎えての米の消費拡大の役を担うのが「きりたんぽ」です。大館の味であり、全国に誇り得る鍋料理です。食堂や料亭での商売だけではなく米を作る人、比内鶏や野菜を生産する人、マイタケをとる人、大館に客を呼ぶ人、総てがこの「きりたんぽ」で何らかの商売をしていることになり、従つて米の消費拡大の当事者になっているのです。そのことが「きりたんぽの里、大館」を全国的に売り込む大きな力となるのです。